

研究テーマ

「一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくり」～自立活動における個別学習の指導を通して～
(2年次/2年計画)

1 テーマ設定の理由

道川分教室の児童生徒は、全員が独立行政法人国立病院機構あきた病院重症(者)病棟に入院しており、卒業後も入院を継続していく。児童生徒が卒業後、それぞれの病棟で豊かな生活を送ることができるようにしていくことが道川分教室の大切な役割である。

そこで昨年度は、児童生徒一人一人の「卒業後の目指す姿」とその実現に向けた「教育的ニーズ」を明確にし、一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくりに取り組んだ。自立活動を中心とする本分教室の教育課程の中でも、教育活動の基盤となる個別指導の時間に焦点を当て、自立活動の流れ図を作成し活用しながら、担任一人だけではなく複数の教員によるチームで協力・連携しながら授業改善を進めた。それにより児童生徒の関心の幅が広がり、活動への見通しをもち、活動への意欲が高まる様子が見られ、表出のタイミングが速くなったり、快の表情が増えたり、気持ちを表出しようとする場面が増えたりという変容につながった。

2年計画の2年次である今年度は、昨年度取り組んだ教育的ニーズの把握や自立活動の流れ図を年度当初から生かし、チームでの話し合いを充実させ、チームで連携しながらより充実した授業づくりを目指して取り組んでいきたいと考えた。

これまで道川分教室で大切にしてきた、児童生徒が主体的に活動するための分かりやすい状況づくりである4つの観点「言葉掛け」「姿勢づくり」「教材・教具の工夫」「授業展開」を意識した授業づくりに取り組み、授業記録やビデオ記録を活用し、チームでの複数の目による客観的な評価と授業改善を積み重ねることで、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた個別学習の指導ができるのではないかと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

複数の教師によるチームで個別学習を支える工夫を行い、教育的ニーズの明確化から指導計画立案・実践までの手続きを行い、客観的な評価と授業改善を積み重ねることで、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた個別学習の指導ができるのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究方法

(1) 授業づくりをチームで支えるための工夫

- ・道川分教室としての教育的ニーズの捉え方、自立活動の流れ図の活用による自立活動の項目と関連付けた指導計画作成までの手続きの仕方について共通理解を図る。
- ・3つのチームを編成し、授業づくり検討会を実施して授業づくりを進める。また、全職員で情報を共有・検討する機会を設定する。
- ・チームごとに授業づくり検討会の中でミニ授業研究会を実施し、ビデオ記録の活用等により各自の個別学習の授業を見合ったり意見交換したりしながら評価を行い、授業改善を進める。
- ・発達アセスメントMEPA-IIを複数の職員により実施し、実態把握に役立てる。
- ・授業評価記録用紙について、個別学習の授業で客観的な評価ができるよう様式や活用方法を工夫し、授業改善に生かすことができるようにする。

(2) 授業づくり検討会(児童生徒一人につき年7回実施)

- ・チームで実態把握を行い、個々の卒業後の目指す姿、教育的ニーズを押さえ、自立活動の流れ図

を活用しながらめあてや手立て、指導内容を考え、授業づくりに生かす。また、ビデオ記録を活用したミニ授業研究会を実施し、評価と授業改善を行う。

- ① 4月：児童生徒一人一人の実態、卒業後の目指す姿、教育的ニーズ、目標等について確認し、昨年度作成した自立活動の流れ図を見直す。それを基に個別学習の指導内容について検討する。
- ② 5月：個別学習の年間指導計画、指導内容を検討し、個別の指導計画に反映させる。
- ③ 6月：指導主事計画訪問に向けてミニ授業研究会（ビデオ参観）を行い、評価と改善点について話し合い、指導案（略案）を作成する。
- ④ 7月：指導主事計画訪問を受けた成果と課題の確認をする。また、中間評価を行い、これまでの指導が適切であったかを確認し、2学期以降の指導に生かす。
- ⑤ 8月～11月：授業研究会①、②、③に向けて指導内容を検討し、指導案を作成するとともに、事前授業を実施して評価を行い、授業改善を図る。
- ⑥ 12月：授業研究会授業提示以外の児童生徒についてミニ授業研究会を行い、評価と改善点について話し合い、成長・変容を確認し、3学期の指導に生かす。
- ⑦ 2月：児童生徒の今年度の変容や成果と課題について評価・確認し、次年度に向けての方向性について検討する。次年度に向けた自立活動の流れ図の見直しを行う。

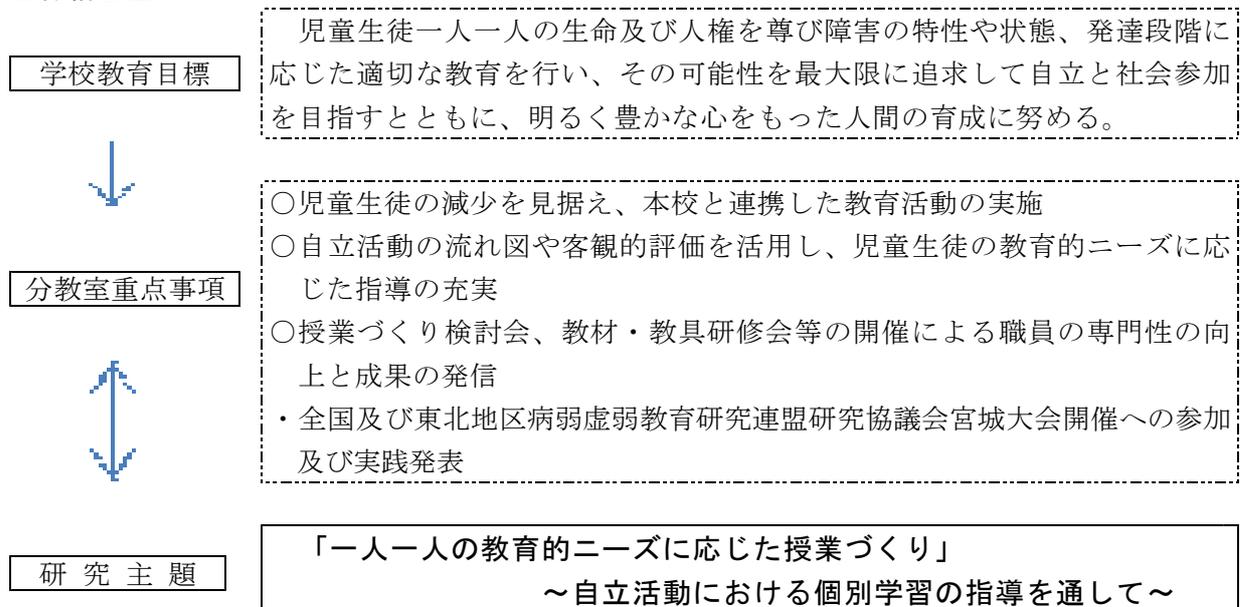
(3) 授業研究会

- ・個別学習の授業提示及び研究協議を通して、教育的ニーズに応じた授業づくりについて協議する。
- ・外部専門家や分教室以外の職員による助言や外部評価を得て、より専門的、多角的に指導内容・方法を検討する。

(4) 自立活動学習会及び教材・教具研修

- ・校内外の人材を活用した自立活動や教材・教具についての研修を実施し、専門性の向上や日々の授業改善に生かす。

4 全体構想図



5 研究の実際

(1) 教育的ニーズの捉えの確認、自立活動の流れ図の作成と活用

年度当初、昨年度検討・確認した道川分教室としての教育的ニーズの捉え方を再確認した上で、児童生徒の成長や変容を踏まえて昨年度作成した自立活動の流れ図の見直しを、チームごとに行

った。担任が代わりチームも昨年度とは違うメンバーとなったが、昨年度試行錯誤しながら取り組んだ成果があり、スムーズに見直しを行うことができた（授業づくり検討会①）。

昨年度は夏までかかった自立活動の流れ図の作成だが、今年度は4月末には完成でき、年度当初の個別の指導計画や年間指導計画の作成に反映させ、個別学習の授業づくりに生かすことができた（授業づくり検討会②）。

(2) 授業づくりをチームで支える取り組み

指導計画の作成に引き続き、授業改善に向けての話し合いも早期にスタートさせた。それぞれの個別学習の授業のビデオ撮影を行い、チームごとにそのビデオ参観によるミニ授業研究会等を実施し（授業づくり検討会③）、複数の目で評価するとともにその後の授業づくりについて話し合い、授業改善を図った。道川分教室では全員があきた病院内のそれぞれの場所で個別学習を行っているため、個別学習の様子を直接参観することが難しいことから、ビデオ映像による授業参観は有効な手立てであった。

授業づくり検討会④では、指導主事計画訪問の指導助言等を踏まえ、児童生徒一人一人についての変容・評価・改善点を話し合い、2学期の取組について確認した。

2学期もチームごとのビデオ参観によるミニ授業研究会を実施し、評価と改善点について話し合い、成長・変容を確認し、その後の指導に生かせるようにした（授業づくり検討会⑤⑥⑦）。授業づくり検討会は計画の7回以外にも必要に応じて随時実施した。また、各チームの実践については全体の分教室研究会で資料を提示し、他チームの取組についても情報を共有した。

(3) 授業研究会

各チームから一つの個別学習の授業提示をし、3回の授業研究会を実施した。授業は、授業づくり検討会等でチームで検討を行ってから提示した。ベッドサイド学習や体調が安定しない児童生徒の授業は、事前にビデオ撮影した映像を見ての参観とした。ワークショップ型研究協議等を行い、指導主事の助言や分教室以外の職員からの意見、授業参観後に提出される授業評価記録用紙に記入された評価や改善点を、その後の授業改善に生かすことができた。

(4) 自立活動学習会

専門性の向上と授業づくりに役立てることを目的として4回実施した（内容については86ページ表1参照）。

(5) 教材・教具について

①教材・教具研修会

児童生徒の活動意欲につながり、自発的に取り組みやすい教材・教具を制作し授業に活用することと、専門家から作り方の指導を受け、教師の制作意欲につなげることをねらいとした。秋田県立大学本荘キャンパス創造工房を会場とし、秋田県立大学システム科学技術部准教授高山正和氏を講師に、年2回（7/26、12/26）実施した。

②教材・教具の紹介

日々の授業で作成・使用した教材・教具を、授業者や制作者が様式に沿ってまとめ、教材のねらい・使い方、材料や作成の工夫、児童生徒の使用している様子等を分教室のホームページで紹介し、重度・重複障害教育に関する実践の情報発信に努めた。また、職員間で回覧するとともに資料としてファイルしておくことで、職員同士で参考にし、アイデアを活用できるようにした。

6 各チームの実践

各チームの実践について、授業研究会で提示した個別学習の授業づくりの取組を紹介する。

(1) 高2チームの実践（抽出生徒A：高2）

①実態把握、卒業後の目指す姿・教育的ニーズの確認、流れ図の見直し、指導計画の作成

（授業づくり検討会Ⅰ～Ⅲより）

<実態>

- ・高等部2年男子。インフルエンザ脳症後四肢麻痺、てんかん。昨年胃瘻造設、経管栄養。
- ・睡眠と覚醒のリズムが不規則で日中も眠っていることが多い。驚いた時等に身体の緊張が強まり、持続しがちである。手や足を動かすことはあるが意図して動かすことは難しい。
- ・言葉掛けや聞こえる音に対して顔や視線を向け、見ようとする。身近な人からの言葉掛けに対して口を動かして応えることがある。
- ・音楽を聴くことや揺れを感じられるシートブランコなどの粗大運動が好きである。

卒業後の目指す姿	教育的ニーズ（各学部の卒業時を想定して）
<ul style="list-style-type: none"> ・体調や体力を維持し、健康な生活を送っている。 ・興味や関心の幅が広がり、療育活動や病院行事に楽しみながら参加している。 ・身近な人の言葉掛けや関わりを受け入れ、気持ちを表情や身体の動きで表現しながら生活している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・覚醒状態を維持し、健康な生活を送る。 ・体操やマッサージをして、関節の可動域を維持したり、緊張を緩めたりする。 ・様々な活動をしながらかの諸感覚への刺激や人からの働き掛けを受け入れ、感じた気持ちを表出する。



中心課題
<ul style="list-style-type: none"> ・体操やマッサージを行って覚醒を促すとともに、興味・関心をもてる環境や活動を設定し、いろいろな活動に取り組み、快の表情や身体の動きを増やしていく。



指導目標
<ul style="list-style-type: none"> ・体操・マッサージ等を通して、覚醒したり、身体の緊張を緩めたりする。 ・諸感覚への刺激や周囲の人からの働き掛けを受け止め、感じた気持ちを表情や身体の動きで表す。



題材設定及び指導内容と手立て（計画訪問の題材を軸に）
<ul style="list-style-type: none"> ・覚醒を促し、リラックスして活動できるよう、体操・マッサージは車椅子から降りて行う。 ・粗大運動を好むため、スライダー等の教材・教具を使つてのダイナミックな動きやスピード感のある活動に取り組む。

②前期の評価と改善点（授業づくり検討会Ⅳ・Ⅴより）

4月からの取組と変容
<ul style="list-style-type: none"> ・体調不良が続き回数は少なかったが、実施したときには眠ることなくしっかりと目覚め、体の揺れや動きを感じて集中したり、目を動かしたりする様子が見られた。 ・教師からの働きかけが主で、自分から発信することは少ないが、目覚めて活動を感じたり、手足の動きや表情を変えるだけでも自発的な動きと考えて評価していく。
今後に向けての改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・体調が不安定であるため、今後もどの程度実施できるか不透明だが、体調を見極めながら、無理のないように配慮してダイナミックな活動に取り組んでいく。 ・生徒が活動に見通しや期待感をもてるような言葉掛けや動かすタイミングを工夫する。

③指導の実際（第1回授業研究会（11月25日実施）より）

ア. 題材名 リラックスしよう・体を動かそう（スライダー）

イ. 題材のねらい

- ・体操やマッサージを通して緊張を緩め、覚醒して活動する。
- ・スライダーの揺れや振動を感じ、気持ちを表情や身体の動きで現す。

ウ. 工夫した点

- ・しっかりと目覚め、緊張を緩め体の力を抜いて活動できるよう言葉掛けしながらゆっくりとストレッチや体操を行う。
- ・動きの違う2種類のスライダーを準備し、生徒の様子を見ながらスライダーの動きを徐々に大きくしたり、スピードを変化させたりしていく。



【ボールプールスライダー】

エ. 学習活動と生徒の様子

学習活動	手立て、留意点	生徒の様子
1 はじめの挨拶をする。		
2 車椅子からマットに降り、体の力を抜いて手足を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> ・手足の緊張を緩められるよう、言葉掛けしながら時間を掛けて一か所ずつ関節を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マットに降りてストレッチや体操をすることで目覚め、緊張を緩め、体の力を抜いて活動に向かうことができた。
3 「ふれ愛リラックス体操」をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・動かしている体の部位を感じられるように、言葉掛けしながら取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライダーが動き出すと、目を大きく開き真剣な顔をする。手足に力が入ることなくリラックスしていて、動きを速めても驚くことはなかった。
4 スライダーの動きを感じる。 ・ボールプールスライダー ・ペットボトルスライダー	<ul style="list-style-type: none"> ・スライダーは、最初は少しずつゆっくり動かし、生徒の様子を見ながら徐々に動きを大きくしたり、スピードを変化させたりしていく。 ・緊張が強まった場合は一度動きを止め、再度リラックスを図ってからスライダーを動かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライダーの動きに合わせて視線や顔の向きを変えて周囲をよく見ている。自分の置かれた状況を集中して感じ取ろうとしていた。 ・動きの合間に「動かすよ」「楽しい？」等言葉掛けをすると、担任に視線を向けて応えた。
5 終わりの挨拶をする。		

オ. 課題（研究協議及び授業評価記録用紙より）

- ・生徒の動きをもっと待ち、じっくり取り組み、微細な表情の変化や体の動きをゆっくりと観察して気持ちを見とり、気持ちを代弁する言葉掛けを増やす。
- ・スライダーを動かす前の教師の掛け声が見通しと期待感を生む。反応のよい言葉の掛け方をいろいろ試した上で、同じ動きに同じ掛け声の積み重ねをする。
- ・経験の積み重ねが見通しと期待感につながる。スライダーは一種類でもいいので実施回数を増やし、工夫を加えながら継続的にじっくり取り組む。

カ. 改善した点と生徒の変容（授業づくり検討会Ⅵ・Ⅶより）

改善した点	生徒の変容
<ul style="list-style-type: none"> ・動く際の掛け声やタイミングを一定にする。動きを止める場面も作り、もっとやりたい等の気持ちの表出を待つ。 ・実施回数を増やし、積み重ねることで見通しと期待感をもてるようにする。 ・ボールプールスライダーだけにして、じっくりと取り組む。イルミネーション等、他の活動と組み合わせて取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな変容は見られないが、毎回しっかりと目覚め、スライダーの動きに合わせて視線や顔の向きを変えながら、集中して活動に取り組んでいた。 ・止まっている時間を設定したり照明を消したりすることで、より周囲の状況を感じようとしたり、イルミネーションを見てリラックスした様子を見せたりした。

キ. 成果と課題

<成果>

興味・関心のある活動と気持ちの表出の読み取り

- ・興味・関心を示す活動をすることで、授業中眠ることなくしっかり目覚めて、集中して活動できた。目や顔を動かし、周囲の様子を感じ取ろうとする様子が見られた。
- ・身体の緊張をほぐし、ゆったりと手足を伸ばした状態で、リラックスして活動できた。表情の変化は大きくはないが、生徒の反応を待ちながらよく観察し、スライダーの動かし方や言葉掛けを工夫しながら活動を繰り返すことで、周囲の様子を把握しようとする真剣な表情やリラックスした穏やかな表情等、気持ちの表出が少しずつ見られるようになってきた。

<課題>

興味・関心の広がりや気持ちの表出の拡大

- ・生徒の好むダイナミックな活動を多く取り入れたいが、今年度は体調不良が続いており、実施できる日が限られた。体調を見極めながら、できる範囲で工夫しながら活動を継続するとともに、様々な活動での様子も見極め、気持ちの読み取りを進め、生徒が興味・関心をもって取り組める活動を増やし、少しずつ自発的な動きや表出を引き出せるようにしていきたい。

(2) 小・高3チームの実践（抽出児童B：小4）

①実態把握、卒業後の目指す姿・教育的ニーズの確認、流れ図の見直し、指導計画の作成

（授業づくり検討会Ⅰ～Ⅲより）

<実態>

- ・小学部4年女子。ミトコンドリア病。慢性呼吸器障害（人工呼吸器使用）、てんかん、経管栄養（胃瘻）。
- ・ベッドサイド学習が中心。行事等に参加する場合はストレッチャー式車椅子を使用し、40分程度呼吸器を外して参加可能。
- ・慣れた人の声や、普段聞こえない音に気付き、声や音のする方向へ眼球を動かしたり、首を動かそうとしたりする。
- ・絵本などを提示すると顔を向けることがある。イルミネーションやライトの点滅では、視線を向けて集中して見たり追視したりする。

卒業後の目指す姿	教育的ニーズ（各学部の卒業時を想定して）
<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムが整い、健康を維持しながら生活している。 ・周囲の人からの働き掛けに対し、表情や身体の動きで気持ちを表しながら生活している。 ・自室で音楽を聴いたり療育活動に参加したりして、楽しく余暇を過ごしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マッサージや体操、関節の曲げ伸ばしなどを行い、心身のリラックスを図る。 ・自分の気持ちを表情や身体の動きで表現できるよう、いろいろな体験や人との関わりができる場を設ける。 ・病棟の協力を得ながら、病棟内外で学習する機会を設ける。

中心課題

- ・人からの話し掛けや読み聞かせ、好きな楽器の音色や感触等を探り、興味・関心がもてる活動を増やす。
- ・身体に働き掛け、筋緊張を軽減させ、リラックスして活動する時間を延ばす。

指導目標

- ・興味・関心の幅を広げ、感じた気持ちを表情や身体の動きで表す。
- ・様々な働き掛けに慣れ、身体をリラックスさせて活動する時間を増やす。

題材設定及び指導内容と手立て（計画訪問の題材を軸に）

- ・聴覚優位であるため、絵本の読み聞かせを通して季節感を味わったり、絵本の内容に出てくる疑似体験をしたりして、興味・関心を広げていく。

②前期の評価と改善点（授業づくり検討会Ⅳ・Ⅴより）

4月からの取組と変容

- ・体調が安定していることが気持ちの表出にもつながり、柔らかい表情が出やすくなってきた。
- ・楽器の音をよく聞く様子が見られる。特にギターを生演奏で覚醒することが多くなった。
- ・よく関わっている教師の言葉掛けには緊張せずに応じることが増えてきた。

今後に向けての改善点

- ・「好き・嫌い」などの表情の変化を促したり、興味を示して「じっと聞いている姿」などを増やしていくために、児童にとって分かりやすい音や光、香りや皮膚感覚などを活用して働き掛ける題材を工夫し、実践する。

③指導の実際（第1回授業研究会（11月25日実施）より）

ア. 題材名 楽しく遊ぼう～秋の遊び～

イ. 題材のねらい

- ・秋をテーマにした話を聞き、感じた気持ちを表情や身体の動きで表す。
- ・落ち葉の色や動く様子、音等を楽しみながら教材に触れたり、教師と一緒に操作したりする。

ウ. 工夫した点

- ・言葉の音の響きを楽しめるように、繰り返しのリズムが出てくる本を選ぶ。



【落ち葉の型抜きを見る】

- ・季節を感じられる題材の中で、児童にとって感じやすい光や音を遊びに取り入れる。
- ・体位変換による顔や体の向きの変化に応じて教材を提示できるように、設置の仕方を工夫する。

エ. 学習活動と児童の様子

学習活動	手立て、留意点	児童の様子
1 詩「11月」を聞き 本時の学習を知る。	・言葉の響きを感じられるよう、 ゆっくりと読む。	・教師の言葉に合わせるように口を もぐもぐと動かした。
2 体操をする。	・体操は、覚醒を促し、リラックス できる内容を設定する。	・体が緩み、リラックスした表情に なる。
3 お話を聞く。 ・「おちばのプール」	・お話を聞いて口や手、腕が動い た時は「いい音だね」等、共感 的な言葉を掛ける。	・終始、耳を傾けた。ページをめく る際に「次はどうなるのかな」と 話し掛けると右手を動かした。
4 落ち葉遊びをする。 ・光る落ち葉を見 る。 ・袋に入った落ち 葉の音を聞く。 ・風や落ち葉の動 きを感じる。	・葉型が明瞭になるように、黒台 紙に型を抜きカラーセロファン を張る。葉が次第に増えるよう に提示数を増やしていく。 ・落ち葉の音に近い音が出る数種 類の紙で作った葉を袋に入れ、 振り方に緩急をつけて振る。 ・手で触れることができる位置で 葉を揺らす。表情の変化が見ら れた時は、遊びを繰り返す。	・カーテンを閉め、頭上にあるライ トの柔らかい光を通して提示する と、自然光よりもじっと見た。 ・振る音を止めると、もっと聞きた いと言うように手や口を動かした。 ・顔の上で落ち葉を揺らした時や風 を当てた時には、表情の変化が見 られなかった。右手が触れる位置 で葉を動かすと、自分から触れた りつかんだりした。

オ. 課題（研究協議及び授業評価記録用紙より）

- ①じっくりと活動することができるように、1単位時間の活動を精選する。
- ②伝えたいことが明確に伝わる教材の提示や活用の仕方を更に検討する。
- ③たくさんの言葉を使って授業を行っていたため、伝えたい言葉を厳選して使用する。

カ. 改善した点と児童の変容（授業づくり検討会VI・VIIより）

改善した点	児童の変容
①体操は、眠気の強い日だけ 行い、覚醒を促しやすい内 容に絞った。	①体操の内容を精選したことで、メインの活動時間に余裕ができ、 働き掛けに対する本児の変化を教師が丁寧に読み取り、それを 言葉にして返す場面が増えた。
②複数の葉の型抜きを、台紙 1枚に1つの型抜きで提示。	②最初に提示する型抜きをシンプルにし、懐中電灯を当てて葉の 形を際立たせたことで、注目する時間が長くなった。
③遊びに使用する言葉を精選 して使用するようにした。	③「黄色」「かさかさ」「ゆらゆら」等に絞って繰り返し使用す ることで、言葉を聞いたときの表情が明るくなってきた。

キ. 成果と課題

<成果>

受け止めやすい教材の工夫

- ・一度に提示する落ち葉の型抜きを一つにしたことで、教師が伝えたい秋のイメージの「落ち葉」
がより鮮明になり、児童が見つめる時間が延びた。授業展開としては、1枚の落ち葉の型抜き
が段階的に増えていく視覚的な面白さと、実際に手で触れる皮膚感覚を活用した提示を組み合
わせたことで、熱心に見たり触ったりする児童の主体的な姿が見られた。

意図のある言葉掛け

- ・当初たくさんの言葉を使用して授業を行っていたが、厳選した言葉を繰り返し使用したことで
教師の意図を感じ、聞いた時の表情に変化が見られるようになってきたと考えられる。

<課題>

経験の積み重ね

- ・今回の題材を通して、言葉を繰り返し使用したことで児童の表情の変化が見られた。今後も使用す
る言葉や教材を変えて継続して働き掛けることにより、経験の拡大を図り、興味・関心を広げて
いく。

(3) 中3チームの実践(抽出生徒C：中3)

①実態把握、卒業後の目指す姿・教育的ニーズの確認、流れ図の見直し、指導計画の作成

(授業づくり検討会Ⅰ～Ⅲより)

<実態>

- ・ 中学部3年女子。てんかん発作と両下肢まひを併せもっている。座位をとり自由に顔や上半身の向きを変えることができる。
- ・ 食事は左手でスプーンを持ち、ソフト食（食形態）をすくって食べる。コップは左手で持って飲む。着替えは介助が必要だが、袖を通すなどの協力動作が見られる。
- ・ 初めての体験や場所に緊張したり、一人で活動することに不安になったりする。
- ・ 簡単な挨拶や返事ができ、自分なりの言葉で快・不快を表すことができる。
- ・ 本の読み聞かせではストーリー性のあるものが好きで、繰り返し聞くことで擬音やせりふを覚えて大まかなストーリーの流れが分かり、次に何が来るかを期待しながら聞いている。
- ・ 皮膚感覚が過敏で、触ったことがない布素材（光沢のある布、レース等）には抵抗を示す様子が見られる。

卒業後の目指す姿	教育的ニーズ（各学部の卒業時を想定して）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 好きな活動を楽しみ、穏やかに過ごしている。（現在はテレビ視聴やCDを聴いて歌うこと） ・ スタッフとの会話を楽しんだり、言葉を掛けてもらったりし、落ち着いて過ごしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、余暇として楽しんでいることに加えて、好きな活動を見つける。 ・ 友達や教師とのかかわりや言葉のやりとりを重ね、新しい活動に参加できるようになる。

中心課題

- ・ 様々な経験をしながら、落ち着いて参加できる場面を増やす。
- ・ 身近な友達や教師とのやりとりを通して、新しい活動に取り組む。

指導目標

- ・ 様々な経験を重ねることで、慣れた小集団の中で安定して過ごせるようになる。
- ・ 友達や教師との関わりや言葉のやりとりをする中で、好きなことが増える。

題材設定及び指導内容と手立て（計画訪問の題材を軸に）

- ・ いつもと違う集団や雰囲気でも落ち着いて参加できるように、好きな活動の中からやりたい活動を選んだり、やりとりを中心に活動したりする。

②前期の評価と改善点（授業づくり検討会Ⅳ・Ⅴより）

4月からの取組と変容

- ・ 授業の始まりや終わりの挨拶をしたり、読み聞かせを通して話す言葉が増えてきたりした。
- ・ 苦手だができることが増え、靴下を履けるようになった。苦手なことに向かう気持ちが少しずつ育ってきた。

今後に向けての改善点

- ・ いろいろな言葉を覚えられるように、楽しい気持ちになるような話題でやりとりをする。
- ・ 靴下が履けたので、柔らかい素材の靴が履けるか挑戦してみる。
- ・ 小集団の中で教師が側にいない中で活動することはまだ難しいため、自分から友達に手を伸ばしたりやりとりしたりできる環境作りをする。また、言葉のやりとりのスキル向上を目指していく。

③指導の実際（第3回授業研究会（12月11日実施）より）

ア. 題材名 聞いてみよう・感じてみよう～やまのぼり～

イ. 題材のねらい

- ・ 自分の気持ち、要求を言葉や表情等で伝えるために、楽しい気持ちを表す言葉を覚える。
- ・ 布の様々な感触の素材に触れて、経験の幅が広がる。

ウ. 工夫した点

- ・見通しをもち、本の内容の場面に合った自分なりの言葉で話すように、生徒が好きな活動でイメージしやすい内容の本を選定する。また、学習の流れを一定にしたり繰り返し読み聞かせたりする。
- ・苦手な活動に向かえるように、気持ちを受け止めやりとりを行い、好きな活動（読み聞かせや見立て遊び等）を毎回できる時間を確保する。



【教師や人形とのやりとり】

エ. 学習活動と生徒の様子

学習活動	手立て、留意点	生徒の様子
1 挨拶をする。	・意欲的に取り組むことができるように、リズムをとりながら話し、明るい雰囲気で行う。	・挨拶をしたり今日の活動内容を伝えたりすることで、見通しや安心感をもち学習に臨んでいた。
2 今日の学習を知る。	・本を読み、様々な感触の布を触ることを伝える。	
3 読み聞かせを聞く。	・本の場面に合った言葉や自分なりの言葉で気持ちを伝えたときには、共感したり称賛したりする。	・初めは思いのままに言葉を発していたが、回を重ねる毎に本の内容を覚え、場面にあった言葉を話すようになった。
4 「やまのぼり」を疑似体験する。 ①箱の中から布を取り出す。 ②布の山を作る。 ③布のカーテンをくぐる。 ④テントの中で活動する。	・布の山やカーテンに触ろうとしないときには、無理せずにゆっくりと見守り、自分から少しでも触れたときには称賛する。 ・緊張しているときには、布の山の中からリボンを取り出し、好きな綱引き等の活動に誘い、気分転換を図る。 ・ポールを立ててテントに見立てた中では、人形にお弁当を食べたり寝せたりする等のやりとりをして楽しい気持ちを共有する。	・布を見るだけで「痛い」と言い触ろうとしなかったため、布のリボンで好きな綱引きを行うと、緊張がほどけた。教師が触る様子を見て、教師と一緒に布に触れ始めた。 ・テントの中での見立て遊びを行い、教師や人形とのやりとりを楽しんでいた。
5 読み聞かせを聞く。	・頑張りを称賛し、最後は好きな本2冊の中から1冊を選び、楽しい気持ちで終われるようにする。	・好きな活動を毎回できることで安心感をもち、楽しんで本の中の言葉をたくさん話していた。
6 挨拶をする。	・楽しい気持ちで終われるように、リズムをとりながら話し、明るい雰囲気で行う。	

オ. 課題（研究協議及び授業評価記録用紙より）

- ・個別学習だけでなく合同学習等の場面でも、覚えてほしい言葉を話す機会を設定する。
- ・苦手な活動を取り入れながら、経験の拡大につなげていく。

カ. 改善した点と生徒の変容（授業づくり検討会Ⅵ・Ⅶより）

改善した点	生徒の変容
・活動後の読み聞かせの場面では、「さんせい」「だいせいこう」の言葉が出てくるものを選ぶ。 ・個別学習以外の活動場面でも、様々な素材の人形を提示する。	・既読の『ぐりとぐら』の本文に「さんせい」の文言があり、この本の中でも意図的に使うと教師と一緒に話すようになった。 ・ぬいぐるみやサンタクロースの指人形など、柔らかい素材であれば受け入れて抱くようになった。

キ. 成果と課題

<成果>

苦手な活動に向かう素地作り

- ・教師とのやりとりを通して見通しや安心感をもたせることで、布に触れる苦手な活動に取り組めるようになってきた。また、読み聞かせや見立て遊びという好きな活動が毎回できる時間を確保することで、苦手な活動に向かう素地を作ることができた。

<課題>

必然性のある場面設定

- ・個別学習だけでなく合同学習や日常生活の中で、生徒が見通しや安心感をもちながら、苦手な活動に取り組める場面設定をしていく。また、覚えてほしい言葉を同様に活動場面に設定していく。

7 まとめ

2年計画の1年目である昨年度は、児童生徒の一人一人の教育的ニーズを明確にし、自立活動の流れ図を作成・活用し、個別学習をチームで支える体制づくりを行なった。

2年目である今年度は、1年目の体制づくりの上に立ち、授業づくりに力を注いだ。年度当初からチームによる指導内容の検討やビデオ活用によるミニ授業研究会等を行うことで、授業改善を進めることができた。

<成果>

(1) チームで協力しての指導計画・授業づくり

授業づくり検討会を核としたチームの連携

- ・昨年度の課題を踏まえ、チームの人数や編成を工夫することで、チームでの連携が取りやすくなった。昨年度よりも授業づくり検討会の回数や内容を充実させたが、それだけでなく、教師同士が日常的にそれぞれの児童生徒の状況や授業の改善点等について情報交換するようになり、日々の授業改善につなげることができた。

自立活動の流れ図を活用した指導計画・授業づくり

- ・昨年度、一人一人の教育的ニーズを検討・共有し、自立活動の流れ図を作成したことで、今年度担任やチーム編成が変わっても、年度当初からスムーズに指導計画づくりに取り組むことができた。チームで自立活動の流れ図を見直すことで、児童生徒の実態、卒業後の目指す姿、教育的ニーズを再確認し、「児童生徒が何をできるようになり」、「そのために教師は何をすべきか」を明確にして授業づくりを進めることができた。

(2) 一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくり

チームでの複数の視点による客観的評価と授業改善

- ・道川分教室では、それぞれが各病室等、病院内の違う場所で1対1の個別学習をしているため、お互いの授業を直接参観しあうことが難しいという課題があった。そこで、各自が自分の授業の映像記録を撮り、授業づくり検討会でビデオ参観と協議を複数回実施した。複数の目でビデオ参観して意見交換・評価をしてきた。ビデオ記録と授業評価記録用紙を活用しながら複数の目で評価することで、担任の思いだけではなく誰が見ても「そうだ」と納得できる客観的な評価に近づくことができた。また、一人では気付かないような指摘も多くあり、教師の働き掛けと児童生徒がそれを受け止め応じる姿、教材・教具の改良点や提示の仕方等について検証し、意見交換をすることで、授業改善につなげることができた。

- ・授業づくりにおいては、道川分教室で大切にしてきた児童生徒が主体的に活動するための分かりやすい状況づくりである4つの観点「言葉掛け」「姿勢づくり」「教材・教具」「授業展開」を授業評価記録用紙にも盛り込み、チームでの話し合いに生かすことができた。

児童生徒一人一人の力の高まり

- ・昨年度に引き続き、そして年度当初から、一人一人の教育的ニーズに応じた個別学習における授業づくりに継続的に取り組んできたことで、児童生徒の関心の幅が広がり、活動の見通しをもち、活動への意欲が高まる様子が見られた。そのことにより、表出のタイミングが速くなったり、快の表情が増えたり、気持ちを表出しようとする場面が増えたりという変容につながった。

<課題>

映像記録の蓄積と活用

- ・授業づくり検討会や分教室授業研究会で個別学習のビデオ映像を有効に活用できたが、授業者が授業をしながら撮影するため、児童生徒の表情や手足の動き、教師とのやり取りを分かりやすく撮影できない部分もあった。また、ベッドサイド学習の場合、授業者一人での撮影が難しい場合もあった。授業づくり検討会や授業研究会の際だけでなく、日々の授業記録とともに映像記録を録りため、変容等をチームで確認していければ、より客観的評価や授業改善に結び付くと考えたが、そこまで取り組むことができなかった。負担なく映像記録を撮ることができるための工夫をし、今年度以上に映像記録を活用し、複数の目でより客観的な評価ができるよう努力していきたい。

チーム以外の教員との連携・情報の共有

- ・自立活動の流れ図の確認から授業づくりまで、各チームで連携して取り組んできたが、それを全職員で共有・意見交換する場が、必ずしも十分ではなかった。全児童生徒の卒業後に向けた目指す姿、教育的ニーズ、個別の目標等を一覧にして提示したり、授業づくり検討会の記録を回覧したりしてきたが、直接話し合う機会が年数回しかなかった。全職員での連携も深めていきたい。

8 今後への提言

2年間、一人一人の教育的ニーズを明確にし、自立活動の流れ図を作成・活用して一人一人の教育的ニーズに応じた個別学習の授業づくりにチームで連携して取り組んできたことは、意義があったと思う。2年間で培った取組体制を基盤とし、映像記録を活用した客観的評価のより深い分析により授業の充実を図る営みを、今後も継続していきたい。

また、教育的ニーズの達成のためには、個別学習だけでなく、行事や合同学習等との関係、児童生徒同士や職員との関わりも重要である。チーム内だけではなく、全職員での連携も深めながら、個別学習での児童生徒の変容・成長を、教育課程全体で生かせるような取組を考えていきたい。

<表 1>分教室研究会、授業研究会、授業づくり・ケース検討会、自立活動学習会、研修会実施一覧

月	研究内容	実施した具体的な内容
4	自立活動学習会①	・卒業後の目指す姿と教育的ニーズ、自立活動の流れ図について
	分教室研究会①	・今年度の研究の進め方について
	授業づくり検討会①	・一人一人の実態や教育的ニーズの確認と自立活動の流れ図の見直し、個別学習の指導内容の検討
5	分教室研究会②	・今年度の研究計画、指導案等の様式の確認、 ・児童生徒一人一人の教育的ニーズ、目標等の共有
	授業づくり検討会②	・個別の指導計画、年間指導計画の目標、題材構成、指導内容についての検討
6	授業づくり検討会③	・個別学習の授業のビデオ参観によるミニ授業研究会 ・指導主事計画訪問提示授業に向けた指導案検討
7	指導主事計画訪問	・授業提示、指導助言を受けての授業改善
	授業づくり検討会④	・指導主事計画訪問の指導助言を受けての改善点の検討 ・1学期の実践の評価と2学期の方向性についての検討
	自立活動学習会②	・全病連宮城大会の研究発表についての検討
	教材・教具研修会①	・講師：秋田県立大学 准教授 高山正和 氏
8	全病連宮城大会研究発表	・第7分科会（重度重複・脳性まひ）研究発表、司会、記録
9	第1回授業研究会（延期）	・授業提示対象生徒の体調不良のため11月に延期
10	自立活動学習会③	・摂食指導について
11	授業づくり検討会⑤	・各授業研究会に向けた事前検討、準備
	第1回授業研究会	・高2チームの提示授業（ビデオ参観）、研究協議会 指導助言：ゆり支援学校道川分教室教頭 近藤 千晴
	第2回授業研究会	・小・高3チームの提示授業（ビデオ参観）、研究協議会 指導助言：ゆり支援学校道川分教室教頭 近藤 千晴
12	分教室研究会③	・これまでの成果と課題の検討と確認、研究のまとめに向けて
	第3回授業研究会 （指導主事要請訪問）	・高等部2階チームの研究授業、授業研究会 指導助言：特別支援教育課指導主事 菊地 真理 氏
	授業づくり検討会⑥	・個別学習の授業のビデオ参観によるミニ授業研究会 ・これまでの成長と変容の確認、今後の方向性についての検討
	分教室研究会④	・研究紀要の作成について
	教材・教具研修会②	・講師：秋田県立大学 准教授 高山 正和 氏
1	授業づくり検討会（臨時）	・研究紀要の作成について（各チームの実践について）
	分教室研究会⑤	・研究のまとめと研究紀要原稿の検討
2	授業づくり検討会⑦	・児童生徒の変容、次年度のねらいについて ・自立活動の流れ図の見直し
	自立活動学習会④	・授業改善プロジェクト（自立活動）の報告
	研修報告会	・公開研究会、秋田県教育研究発表会の報告
3	分教室研究会⑤	・研究のまとめと次年度計画に向けて